2014年度保護者満足度調査自由記述と質問への回答

2014年度保護者満足度調査に多くのご質問・ご要望をお寄せいただきまして、誠にありがとうございました。お寄せいただきましたご意見・ご要望に個々に回答できませんが、[質問・要望に対する回答]として次ページ以降に回答させていただきます。

また、自由記述に本学の教育に対して好意的なコメントもいただきましたので一部ですが下記にご紹介いたします。

今後もよりよい教育を目指して取り組んでまいりますので、引き続きご支援、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

[自由記述の一部の紹介]　※学年は2014年度時点

・時に厳しくも、接し方は大変良好であったと聞いています。よく学生に考えさせることを意識させる課題は、看護学生の将来に向けて成長には欠かせないスキルになって行くと思います。先生の意図するものを考える姿勢を見ていて、信頼関係ができている良い先生に巡り会えたと、感謝しています。
学生によって教員の接し方や態度が変わって見えてしまう場面もあったと聞いていますが、学生間での意識の違いで受け手の捉え方も変わってくると考えられます。〔看護学部/4年次生〕

・就職に対する疑問に対し、詳細を丁寧にご回答いただきまして大変助かりました。不安なく就職活動にとりくむことができそうです。〔看護学部/3年次生〕

・学報、保護者会後に書類を送って下さり、私達親は遠方にいるので様子が良くわかり助かっています。他大学に比べ、手厚い指導、親への連絡で安心できます。〔看護学部/2年次生〕

・長女が4年生、次女が1年生の看護学部でお世話になっております。教育方針も然る事ながら、聖隷という大きな組織で連携が取れ、情報も豊富で恵まれた環境の中で学ぶ事が出来、かゆい所に手が届き、温かく愛情のある先生の方々、どれを取っても満足させていただき、娘達を通わせて本当に良かったと感謝しております。〔看護学部/1年次生〕

・就職に関して、とても親身に相談にのっていただいたようです。少しでも不明な点、心配な点があると、すぐに先生方に相談にのっていただきました。〔社会福祉学部こども教育福祉学科/4年次生〕

・大学内の事をあまり詳しく話してくれないので、よく分かりませんが、実習、ボランティアについては大学から情報を頂くようで、おとなしい子でしたが、自分から積極的に色々な施設にボランティア等に出かけるようになりました。精神的にも成長したように感じます。御指導ありがとうございます。〔社会福祉学部/3年次生〕

・男の学生が少なめの学部、学科に入ったので、男の子同士の結束はとても良好な様です。男の子の兄弟の中で育ちましたが福祉の勉強の成果もあいまってとても優しい面が表に出るようになってくれました。先生方も気さくに話して下さっているようです。どの先生も息子を優しく見守って下さっているようで感謝しております。〔社会福祉学部/2年次生〕

・学生生活がとても楽しく充実しているようです。聖隷に入学して良かった、ありがとうとよく言っています。その言葉を聞き、安心しています。これからもよき学生生活ができるようよろしくお願い致します。〔社会福祉学部/1年次生〕

・同じ目標を持つ友達と4年間過ごせ先生方の細やかな御指導もあり、こちらの大学に進学し本当に良かったと思っています。4年間お世話になり有難うございました。〔リハビリテーション学部/4年次生〕

・厳しくご指導いただき心から感謝申し上げます。医療の現場は保護者が考えるよりとても厳しいところです。学生が現場に出て困らないように、という先生方のご努力が保護者に伝わりにくいのかもしれません。懇談会等で『甘やかさないで共に厳しく育てていこう』ともっと具体的に呼びかけないと分かってもらえないと思います。医療人は一朝一夕には育ちません。この四年をより一層有意義にするためにも、この際、保護者にも強くなっていただきましょう。〔リハビリテーション学部/3年次生〕

・20歳の誕生日を迎えるにあたり、娘から手紙が届きました。これまでの感謝と共に、聖隷クリストファー大学で楽しく過ごしていると。友達にも恵まれ、これからも頑張っていくという内容でした。こんな手紙をくれるとは思っていなかったのですが、明るく優しい子に育ってくれたことをありがたく、大学生活のおかげと思いました。〔リハビリテーション学部/2年次生〕

・学生に対し、学習面だけではなく、心身面にも目を向け心あるご指導をいただけることに大変感謝して

おります。一度言語聴覚士から気持ちが遠のいてしまったのですが、その根本を優しく時間をかけてフォローして下さり、意欲ももどり今は前向きに授業にも参加できている様子で、本当に先生方には感謝しております。もう大学生だから何事も自分で…と離してしまうのではなく、何かにぶつかった時は、いつでも落ち着いて考えれる場をつくっておくことが家庭での大切な役割だと改めて感じました。これからも親子共々宜しくお願い致します。〔リハビリテーション学部/2 年次生〕

・「今日は面談だった」入学してから 1～2 回聞きました。大学でこのように一人一人に時間を作って指導して下さることに驚きました。時に厳しいご指導も本人は十分理解している様ですので、どうぞ宜しくお願い致します。〔リハビリテーション学部/1 年次生〕

［質問・要望に対する回答］

(1) 教育

【全学共通】

（質問）　**抽選になる科目ができるだけでないようにしてほしい。他の科目との兼ね合いで、春にも秋にも取れない場合も出てしまう。共通科目は時間数を増やせないのか。**

（回答）　履修者の抽選は、授業科目によって希望者がクラスの適正数を超える場合に行うことがあります。事前に可能な限り、講師を増員して開講するクラスを増やすように調整しています。更に、履修登録の結果によって開講クラスの増加を図るなど、できる限り抽選にならないよう毎年改善を図っています。

また、抽選にもれると「履修ができない」のではなく、秋セメスターには履修ができるように配慮をしています。大学としても、春と秋に履修者が分散して登録者全員が履修できるよう、講師の増員、クラスを増やすなどの工夫をしていきます。

（質問）　**再試験の手続きを 1 年間のスケジュールの中に組んでほしい**

（回答）　本学の定期試験と再試験のスケジュールは、約 4 ヶ月前に学生に提示しているところです。今後、学生への周知・徹底を図ってきます。一方で、定期試験までに必要な学力を身につけることが、学生の学修には必要とされることでもあります。再試験を受験するという結果にならないためにも、日常生活の学修への取り組みをより強化していきたいと考えています。

（質問）　**・分かりにくい授業がある**
・授業内容が不明でよく分からない

（回答）　各セメスターで行われる授業評価により、教員は授業改善の努力をすすめているところです。2014 年度は授業評価を中間期の実施に変更し、授業に対して学生の評価や要望を反映するようにしています。また、大学として教員の授業能力を高めるための研修を継続的に行い、各学部学科が全体で授業内容の改善への努力をしています。授業改善については、まだまだ解決するべき課題があるのが現状です。大学では、履修要項・シラバスに、事前・事後学修を学生に明示しています。自主的な学習によって、授業へ積極的に取り組み、教員へ質問などをおこない、理解をよりいっそう深めるようにもしていただけたらと思います。

（質問）　**授業の時間割が 2～3 コマ空いている。**

（回答）　資格取得のための実習期間や、授業の展開によっては、授業がないという偏りがあるかと思います。今後、より一層時間割の配置の工夫を図るようにしてまいります。一方、授業の時間割りの空きの時間は、大学の授業においては自主的な学習時間として保障がされた時間です。学生には、事前・事後学修としての学びの時間にする指導にも取り組みます。

【看護学部】

1）授業（講義・演習）

（質問）　**□私語が多いことに驚いている。私語は徹底的に排除されるべき！私語を許している教師はいかがなものか。**
□授業中の私語が多いことに驚いている。高校よりひどい。私語を注意してほしい。私語が多すぎて授業に集中できない。

（回答）　授業中の私語への対応は、大学として継続して取り組んできているところです。授業をする教員には、「私語攻略ハンドブック」（2008 年 4 月全学 FD 委員会編）等を示し、学生の受講マナー向上のための申し合わせを実施しています。ハンドブックを踏まえ、私語に対する教員の心構え、授業準備、授業方法の工夫（特に 2013 年度からは、アクティブラーニングを強化する）などを実行してきてい

ます。また、非常勤講師の先生にも協力を呼び掛け、注意をしてもらっています。その成果として、すべての学年で、私語は大きく減少してきています。

しかし、態度が改まらない学生も一部にあり、そのような場合には、学生指導の教員やアドバイザーからも学生の状況や、なぜ私語をするかについて話し合っています。それによって学生自身が、私語が授業にマイナスの影響を与えていることに気づき、良識ある大学生として、他の学生が貴重な授業に真剣に取り組んでいるのを妨げる行動は慎むこと、私語する学生自身も真剣に授業に参加しないため、自分自身を育てる機会を失ってしまうことに気づき、自分をコントロールする力を持つことが、大学で学習する意味の一つであり、自分に責任を持つことを自覚できるようにしています。

さらに、変化が激しい社会の中で、「生命の尊厳と隣人愛を理解した専門職業人になることを目指している」わが大学の学生は、時間を大事にして、前向きに取り組むことが必要であり、他者に言われる前に、自ら「よく考えて、何をすべきかを計画し、計画に基づいて行動し、結果にも責任を持てる」ようになることを目指してほしいと常に働きかけています。

2014 年度は上記のような取り組みを重ねてきており、2015 年度も同様の取り組みを継続しますので、これまでの成果が出てくることを期待できると考えています。

（質問）　**授業の時間割が 2～3 コマ空いている。**

（回答）　資格取得のための実習期間や、授業の展開方法によっては、空き時間が多いということもあるかと思います。とくに、本学のように、専門職業人を育成する大学では、学ぶべき科目数や単位数が多いこと、保健師や養護教諭等の資格の取得のために選択科目も多数配置しなければならない事情もあり、実習施設の条件も加わるため、偏ってしまうことがあったと思います。今後は、時間割の配置の工夫をさらに熟慮し、可能な限りバランスが取れるように取り組んで作成いたします。

他方、空き時間の利用の仕方では、大学の授業においては、授業の時間割上の空き時間は、学生の自主的な学習時間として、活用するべき時間でもあります。したがって、1 コマの授業の前には、1 コマに相当する時間の予習と、授業終了後にも復習の時間を持つことが文部科学省からも強く推奨されています。

本学では、学生たちが気持ちよく学習できる環境のひとつとして、図書館の横にラーニングコモンズを設置し、自由に学習できる環境を整えております。そこでは、図書館から文献検索や参考書を借りてきて読む、あるいは友人とディスカッションしたい場合には、ラーニングコモンズで意見交換するなどして、視野を広め・深められるようにしてあります。つまり、教室以外でも本を読んで理解を深める、あるいはレポートを作成するなどが可能になる環境にあります。そのため、学生が、空き時間を有効活用するために、常に「課題」を意識した学習についての指導もしていきます。

（質問）　**木曜日の基礎看護技術演習と金曜日の基礎看護技術論Ⅰの順序を逆にすることはできないのか？**

（回答）　ご指摘の通り、通常では「基礎看護技術論Ⅰ」が先で、「基礎看護技術演習」が後に配置されます。2014 年度はやむを得ず入れ替わってしまい、ご迷惑をかけてしまったと思います。今後は、順序性をふまえた配置にします。

（質問）　**・成績の基準が不明確、実技試験の合否が先生によって違いがあり、統一してほしい。**
・教員によって指導がバラバラで、答え方が違う。
・教員によって質問に対する答えが違う。

（回答）　技術試験は、担当する教員間で基準を統一し、共有し、それを学生に示し、その基準のチェックポイントに沿って、技術が正しく・適切にできていることを確認して行っています。今後、実技試験を＜否＞と判定する時は、その理由を学生と共有し、書面で渡すようにしていきたいと思います。なお、2014 年度の実技試験の科目である基礎看護技術演習は、最終段階までの試験を受けた学生は全員合格しています。

技術教育等に関する内容では、担当する教員間で可能な限り統一した言葉や基準で説明できるようにし、方法も可能な範囲で一緒の方法で行うようにしています。しかし、実際の場面では、繰り返し説明しているうちに、違う言葉で説明したり異なる方法で指導することもあると考えます。その場合は、教員に質問して確認するようにしてください。なぜそうしたかが説明されます。今後は、学生の皆さんが納得できるよう、統一した方法で指導できるようにします。

（質問）　**看護職の魅力・やりがいを伝えてほしい。看護職を選んで良かったと思える機会が少ないようである。**

（回答）　看護教育の中では臨床（地）実習の時間数が多く、その中で、看護学生は看護の責務・魅力・やりがいなどを強く体験し、グループ仲間や友人たちと深く共感できていることが多いと考えています。しかし、そのためには、関連付けや、ある状況が持つ意味の解釈などを教員が支援することが必要で

す。卒業生を見ていますと、多くの場合それらを経験し、役割意識に目覚めて、看護実践への意欲を高め、就職していきます。臨床実習では、それらに対する教員のアプローチや説明・意味づけを学生に向けて指導することが必要と思われます。

今後は、学生の体験や感じたことを基盤にして、実感の共有化、役割の意味づけ、人間の尊厳や自律等の解釈など、事実と抽象概念、関連付けなどを促す働きかけを教員間で共有し、実習指導に生かせるようにしていきます。

本学の看護教育はこれらの実習指導に誇りと自信を持って指導しています。伝わっていなかったことを強く反省するとともに、今後の指導に生かせるように積極的に取り組んでいきます。

（質問）　**国家試験直前にレポート課題が多く出された。課題の量やタイミングを考えてほしい。**

（回答）　通常、国家試験の直前には、ほとんどのレポートや課題の提出は終了しており、受験準備に集中できるように配慮しています。しかし、2014 年度は卒業に必要な単位を、国家試験準備学習に集中している時期（8 セメ）に履修しなければならなかった事情があったため、タイミングが重なってしまいました。今後は、そのようなことが生じないように配慮いたします。

（質問）　**分かりにくい授業や授業内容が不明確の授業がある**

（回答）　授業評価をセメスター（学期）の中間で行い、授業改善に取り組んでいます。具体的には、学生の授業評価をもとに、授業評価の低い教員には、学部長が面接し、授業改善案を提出してもらい、その改善案に沿って授業を展開し、成果が出てきていますので、今後も授業改善に継続的に取り組んでいきます。

他方、教員の教授能力を高めるための研修や、教員間での評価・助言を継続的に行っており、効果的な教授方法についても多角的な視点で探索しています。さらに、学生の自己学習の効果的な実践についても探索し・改善して来ています。特に最近では、学生が主体的に自己学習を推進できるように、授業中は勿論のこと、履修要項・シラバス上にも、事前・事後学習の必要性について明示し、そのきっかけになる小さな課題や考えるテーマを授業のリアクションペーパー等に提示し、学生は、次回の授業までにそれらを学習してくるようになり、成果をあげています。

授業は、教員と学生が一緒に作り上げていく知的・情緒的・技術的活動でもあります。今後も改善や効果的・発展的な方法を継続して探索していきますので、忌憚ないご意見をお寄せくださいますようお願い致します。

2）臨地実習

（質問）　**・公平に実習場所を配分してほしい。**

□実習場所の配置は公平にしてほしい。自宅から通えるように配慮してほしい。車で行かなければ辿りつかないような交通の便の悪いところは避けてほしい。

（回答）　例えば、老年看護学領域では、老年看護学実習Ⅱ（3 週間）は大学から 4～5 分の距離にある施設で実習していますが、老年看護学実習Ⅰ（1 週間）は大学から遠い位置にある施設もあるため、次のような配慮をしています。→学生さんの実習場への配置は、住所等の事前調査を基に、通学手段、通学路、バス路線、土地勘（県外出身学生もいる為）や施設の駐車場などを配慮し、安全に事故なく通学できることを考慮しながら、公平性をもって振り分けています。そのため、学生さん個々人にとっては、必ずしも自宅から一番近いところに行けるとは限っていません。

また、公衆衛生看護学実習場については、大学からの距離は、必ずしも公平ではない状況となっています。公衆衛生看護学実習（選択科目）は、市町村や保健所の実習が必要となりますが、公的機関であり、他大学も実習場として使用することから、受け入れる側からの制限が加わっています。そのため、本学の 80 名近い学生の配置を計画しますと、浜松市のみの施設では限界があり、静岡県内の西部地域・中部地域の市町村に実習場が広がります。どの実習場も学ぶ環境としては、高い質を保っていますが、大学からの距離や、通学できない場合は宿泊も伴います。全ての負担を公平にすることはなかなか困難ですが、可能な限り経済的な負担の公平な配分を目指して、保健師課程を選択した学生さんに対して、一定額の実習交通費を集め、大学で管理し、宿泊者の宿泊代等、高額になる部分への補充をしています。

よりよい、実習の実施のために、ぜひ事情をご理解くださいますようお願いいたします。

3）教員

（質問）　**□専門用語が次々と講義中に出るが、用語の解説と合わせた説明が必要である。**

（回答）　学年によっても専門用語の種類や使用頻度は違いますが、いずれの場合もご指摘のように、用語の解説をして用いることが必要ですので、今後はその点を強く認識して行うようにします。

（質問）　**・想像以上に厳しいことを言われ、委縮して大変な思いをした。感情的に訳もなくしかる教員がいる。**
・教員の態度が傲慢である。学生側に立って指導してくれる教員がいるとよい。

（回答）　「学生自身に考えて欲しい」という期待や思いから、ご指摘のような対応になってしまう教員がいたのかもしれません。しかし、学生には（人には誰にでも）、そのときの事情や優先すべきこと等もあり、生活の中では計画通りいかないこともあります。特に看護教育に関わる当大学の教員（人）としては、「学生はなぜそのようなことをしたのかなど」について、理由や状況を尋ねることを第一にし、相手の状況を理解しなければならないことを、大学の理念「隣人愛」として、共有していますが、そのような対応でなく、「萎縮させてしまった、訳もなくしかる、傲慢な態度」などで学生に大変な思いをさせてしまったことを、心より深くお詫び致します。

今後は、学生の質問や思い等に対して、考えるヒントを示し、よりいっそう‘一緒に考えていこう’という姿勢で向き合って行けるようにしていきたいと思います。また、どの教員も学生の成長や発展を願っています。教員側からも声をかけてコミュニケーションをとっていきたいと考えていますので、学生の皆さんも先入観を持たずに、大学生としてのマナーを守って、気軽に声をかける、あるいは教員室訪問をするなど、教員との距離を縮めるために、前向きに行動していただければと思います。

4）国試対策

（質問）　**国試の外来講師による補講費用など、学費から出せないものか**

（回答）　大学として、国試対策の講義に費用のご請求はしてはいません（おそらく、ご意見の内容は、希望者のみが参加している国試対策の外部講師の講座のことであると思います）　。

本学看護学部の国試対策としては、3 年次から国試ガイダンスを開始し 4 年次まで継続して、①国試関連の情報提供、②国試に向けた学習のサポート、③学生との個別相談を行い、定期的に学内模試（看護師学内模試 8 回、保健師学内模試 2 回）を実施しています。

また、4 年次には全国規模で国試と同問題数が出題される業者模試（看護師 5 回、保健師 4 回）を利用して、学生各々が自らの学力を把握しながら国試対策に取り組むよう指導しています（全国業者模試には 1 万～2 万円程度の費用がかかりますが、後援会から一部補助をいただき負担を軽減しています)。

それとともに 4 年次生の 10～12 月には、正規の授業外に看護学部教員が過去の国試問題の解説等を行う国試勉強会（計 30 コマ）を開催し、国試学習で生じた疑問・質問に対して各教員が根拠を踏まえて丁寧に対応する等のサポートを行っています。

それでも国試対策に不安を感じる学生が、夏季・冬季休暇中に外部講師（国試対策専門予備校等の講師）による国試講習会（希望者有料）を活用しています（これは希望者が参加するもので、大学として参加の強制はしていません。外部講師の講義は受講せずに、学内の国試対策プログラムのみで合格している学生は毎年おります。

国家試験は、看護専門職として一定レベルの知識を持って判断できるかを判定する試験です。確実な知識・技術を習得した看護専門職となるために、低学年から継続的に学習する習慣を身につけて、計画性を持って課題に取り組むことや、実習を通して看護の判断力を高めることが、国試合格に繋がる確実な道です。

学内の国試対策プログラムや模擬試験を積み重ねながら、自分の力量を自分で把握・判断し、授業・実習・就職活動等、自分のスケジュールに合わせて学習計画を立てて、本番まで学習をコツコツと積み重ねてゆく自己管理能力とその過程での経験は、国試の合格に際して、特に最後の踏ん張りどころで問われてくる力量として必要不可欠なものであると考えています。

国試対策の活動主体は、受験生一人一人です。合格に向けて教員・職員連携して国試対策に取り組んでいますので、保護者の皆様も学生が主体的に学習に取り組むよう、今後ともご支援をお願いいたします。

【社会福祉学部】

●学部全体

1）就職支援

（質問）　**・社会福祉系の大学の就職活動は他の大学と日程や状況が違うので…もっと具体的な情報を提供していただきたい〔社会福祉学科 3 年次生〕**
・就職の件については全然情報が入ってこない〔社会福祉学科 4 年次生〕
・就職活動に対する学生の対応時期等、どのように進めていくかの事例や詳細情報を発信してほしい〔こども教育福祉学科 1 年次生〕。

（回答）　学生に向けては毎学期の初めに行われますオリエンテーションで就職センターの職員と就職委員の教員とで学生に就職活動についての情報を提供し支援を行っています。また 1 年次で行われる「専門

職連携の基礎」の科目では「キャリアガイドブック」を配布し、本校の卒業生の就職先での仕事ぶりをイメージできるように支援しています。3 年次には「就職ガイドブック」を配布しています。学生の希望する領域ごとの就職に向けてのスケジュールまで記載されています。学生からの就職に関する満足度は高いのが社会福祉学部の特徴ですが、保護者の方に対する情報提供の機会や資料の提供が十分ではなかったことを今回のアンケートにより痛感し、今年度は入学式の前に行われる保護者ガイダンスで「就職ガイドブック」の重要な個所は資料として当日配布し説明もしました。7 月に行われる保護者懇談会でもより丁寧な説明を行いたいと思っています。また本学のホームページからも就職支援についての情報は随時掲載していますのでご覧ください。

2）海外研修

（質問）　**・海外研修をさせたい希望があるが、親に対する情報が足りない〔社会福祉学科 4 年次生〕**
・国際交流活動の場所を増やしてほしい。利用しやすくしてほしい。〔こども教育福祉学科 1 年次生〕
・海外研修、実習等の機会があれば、ぜひ体験させたいと思っておりますがどんなものがあるのでしょうか〔こども教育福祉学科 2 年次生〕

（回答）　国際交流には二つのパターンがあります。一つは国際福祉実習です。もう一つは海外研修です。社会福祉学部独自に国際福祉実習施設があります。インドにある「聖隷希望の家」、ブラジルの「希望の家」。この二施設は聖隷グループの施設です。本学との協力施設として韓国には「東明高齢者福祉センター」、「東明園児童福祉センター」があります。海外研修先としてはシンガポールの「ナンヤン理工学院」等大学と提携をしているものもあります。また新たに韓国の大学とも交流の可能性を本年度から調査し、開拓していくつもりです。

保護者懇談会等で保護者の方には説明をしてきたつもりでしたが、不十分だったと痛感しました。これからは保護者ガイダンス、保護者懇談会等でも時間を割いて説明をするようにいたします。また学生に資料を配布した際には保護者の方にも見ていただくように指導するようにいたします。それ以外でもお気づきの点がありましたら、国際交流センターや学部教員等にお電話やメールをいただきますようにお願いいたします。

●社会福祉学科

1）授業（講義・演習）

（質問）　**学びたい意欲や心構えに温度差があり、私語、遅刻等気になる〔2 年次生〕**

（回答）　1 年次春セメスターに開講される専門科目の授業の中で、受講マナーを説明し、遅刻の取り扱いについてルール化し、私語について注意喚起をするなど、まずは予防に努めています。

さらにご指摘の事象が起こった場合は、その都度注意するようにしています。

こうしたことを教員間で意思統一していきます。

2）臨地実習

（質問）　**実習場所で事故があったときの対応〔3 年次生〕**

（回答）　実習中、実習先で事故が発生した場合の対応については「実習の手引き」に掲載し、実習前のオリエンテーションでも学生に伝えているところですが、実際の事故に際しては、実習担当教員、学生サービスセンター、実習先でまずは迅速に連携した対応をし、学生の不安を取り除くようにしたいと考えています。

（質問）　**MSW 実習に際しての実習場所や日程決定の遅れ〔3 年次生〕**

（回答）　医療ソーシャルワーク実習については、専門の教員配置、コース制完成により、2014 年度、希望学生が急増しました。そのため従来のような学生主体の実習先確保は困難と判断し、担当教員を中心に実習先を確保することにいたしましたが、新たな実習先を開拓することから始めなければならなかったため、決定時期が 2 か月前となりました。現在、医療ソーシャルワーカー養成のためのカリキュラムを構築すべく検討を進めているところです。ご理解いただけますようよろしくお願いいたします。

なお学生に対しては不安を与えないよう、途中経過を丁寧に説明することも併せて心がけます。

（質問）　**実習先の担当職員の偏見により苦労した〔4 年次生〕**

（回答）　実習先施設・職員等との関係を含む実習中の不安や悩みなどについては、教員による巡回指導、帰校日を活用しての指導（社会福祉士、精神保健福祉士受験資格取得のための実習においては、教員が原則週 1 回指導することになっています）の際、確認するようにしています。

まずはご意見のような事態に至らないために、学生が教員にどんなことでも気軽に相談できるような体制を整えます。その上で、必要に応じて実習施設に現状を伝え、改善を求めるなどの対処をしていきます。

3）教員

（質問）　**アドバイザーに相談しづらい、教員や事務との関わりがうすい〔2，3 年次生〕**

（回答）　アドバイザーを身近に感じていただくため、1 年次，2 年次については、それぞれの学年で開講されている演習科目の担当教員をアドバイザーとして配置しました。これにより、週 1 回程度は教員とコミュニケーションをはかることができるので、相談しづらさを解消できるのではないかと期待しています。

また、3 年秋～4 年は総合演習担当教員がアドバイザーを兼ねるので、社会福祉学科所属学生のアドバイザーを他学科教員が担うことも起こりますが、今年度から社会福祉学科教員も第 2 のアドバイザーとして配置しています。

4）国試対策

（質問）　**国家試験対策講座への出席率が良くない〔2 年次生〕**

（回答）　国家試験対策委員との日常的な情報交換をとおし、学科としても出席状況を把握し、今まで以上に出席を促します。また教員で意思統一をはかり、あらゆる場面で声かけをするなど、国家試験合格に向けての動機づけを日常的に行います。

●介護福祉学科

1）授業（講義・演習）

（質問）　**介護は、腰などのけがが多いようですが、ちゃんと教えてもらえるのでしょうか（2 年次生〕**

（回答）　介護福祉士の技術にボディメカニクスという技法があります。それは、力学的原理を活用した介護技術のことで、介護する側にとっての、無理のない自然な姿勢で介護することができます。介護者自身のボディメカニクスを活用した介護は、最小の労力で疲労が少なく、腰痛防止にもつながる方法です。万全とは言えませんが、技術の演習が始まる時の最初の授業に取り入れるようにしています。

2）臨地実習

（質問）　**・実習先の希望は聞いていただけませんでしょうか〔2 年次生〕**

・実習先が家から遠かったり交通手段、時間があわない。金銭的、精神的に負担がかかります。配慮してください。事故があった時の保障は？〔2 年次生）

（回答）　介護実習にあたり学生を対象にアンケートを実施しています。配属先は、介護福祉士として必要な知識・技術を統合し習得するために、丁寧な実習指導をしていただける施設に依頼をしています。配属決定においては学生アンケートを踏まえ、配属先との調整になりますが、必ずしも希望に添えないこともあります。その為、決定までのプロセスの中で学生さんへの説明など十分な配慮が必要と考えています。

また不幸にも事故に遭遇した場合、実習は教育活動の一環であるため、全員が加入している日本国際教育支援協会の学生教育研究災害傷害保険などで補償が行われます。

3）国試対策

（質問）　**国家試験に向けて対策講座を開いてください〔2 年次生〕**

（回答）　社会福祉学部では国試対策委員会の教員を中心に対策講座・模擬試験実施など、学年ごとに合格に向けた受験対策を講じています。1、2 年次生に対しては、授業への取り組み具合が合格の第 1 歩であることを繰り返し伝え、3 年次生に対しては、テキストの推奨・最終学年におけるイメージ化を図り、早期の取り組み、意識づけを行っています。最も重要な 4 年次においては、オリジナル冊子を用いて効果的、効率的な学習方法の習得のためのサポートや、複数回の模擬試験、専門業者による国試対策講座を実施しています。

また、介護福祉学科では、学部での取り組みに加え、学習サポート、個別面接、下級生による壮行会開催など受験生のモチベーション維持・向上支援を独自に行っています。

●こども教育福祉学科

1）国試対策

（質問）　**・国試対策のシステムなどを知りたい〔1 年次生〕**

・国家試験に向けての勉強と実習等を両立させるためのアドバイスが欲しい〔3 年次生〕

（回答）　7 月に実施される保護者懇談会の学科別説明会において詳しく説明しています。学生の皆さんに対しては国試対策講座、模擬試験の内容、費用、勉強方法についても丁寧に教えていますが、保護者の皆様にもご案内する方法（ホームページ等）を検討し、お知らせするようにいたします。

【リハビリテーション学部】

●理学療法学科

1）授業（講義・演習）

（質問）　**グループワークの取り組み方法に配慮を・・・〔3 年次生〕**

（回答）　現在、理学療法学科では学生の皆さんが能動的に学修を進めていくことができるような取り組みを進めています。その中でもグループ学習は大変重要な学修形態となります。これまでも、学生の学修スケジュールを考慮し、教員間での課題配分等を調整しています。学年が進行するにつれ、その難易度や質・量も深度を増していきます。今後も学生に大幅な負担が出ないよう、教員間での意識統一を図っていきます。今後も、専門職としての実学での技術、知識の習得はもちろん、社会から選ばれ続けていく理学療法士（または社会人）になるため、論理的思考（知的好奇心の有効活用）や問題解決能力の獲得といった大学教育にふさわしい指導を進めていきたいと思います。引き続き、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

2）臨床実習

（質問）　**2 年次の始めに実習先の決定や実習の経費などを昨年度の資料をもとに親子説明会を開いてほしい。〔1 年次生〕**

（回答）　ご提案ありがとうございます。ご提案の内容をもとに次年度以降の活動を見直したいと思います。本年度につきましては、10 月 10 日（土）に開催いたしますリハビリテーション学部の「保護者懇談会」の学科別懇談会の中で説明を加えていくよう準備を進めていきます。

（質問）　**実習地が遠すぎる。〔3 年次生〕**

（回答）　ご指摘ありがとうございます。理学療法学科では、長期臨床実習の施設は、学生の精神的負担ならびに保護者様のご負担をできる限り軽減できるよう、①レオパレス等の宿泊施設を使用する数をできる限り少なくすること、②実家等を考慮した施設配置を行うこと、③通学時間を 90 分以内に抑えることの 3 点を勘案して確保しています。一方、できるだけ有意義な、勉強になる実習地も合わせて考慮しており、それらを複合して実習配置を行っています。

すべての希望に添えない場合があることをご了承願います。教員も学外にいる学生の皆さんを精一杯サポートいたします。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（質問）　**臨床実習施設について、実習地によって課題のバラツキがあるようです。実習終了間際では、睡眠時間がほとんどありません。元気に患者さんと対応できるよう配慮をお願いします。くまができていたり、活力がなかったりでは、なんのための実習？　身につくのでしょうか？〔3 年次生〕**

（回答）　ご指摘ありがとうございます。理学療法学科では、実習施設間のバラツキを軽減するように、臨床実習指導者との打ち合わせ会議を通して、学生の体調管理に対する配慮のお願いもしています。

今後も各学生に学内の実習担当教員を配置し、よりよい有意義な実習となるよう、実習施設との連携を強化していきます。

●作業療法学科

1）授業（講義・演習）

（質問）　**一年次の授業科目が作業療法の専門性にどのように活かされるのか分かりにくいと感じる。またグループワークを増やして色々な人の意見を聞いたり、考え方をまとめる力をつけるようにして頂きたい。〔1 年次生〕**

（回答）　リハビリテーション学部では、1 年次、2 年次で基礎医学や臨床医学を学び、それを基盤として専門科目を学ぶことが基本的なカリキュラムとなっています。ご指摘のとおり、低学年での学びの内容は作業療法のプロセスそのものに言及するものではないため、どうしても作業療法士という自身のイメージを描きにくい面があると思います。

これを補うために、作業療法学科では 1 年次より問題基盤型学習（PBL：Problem Based Learning）を取り入れています。これは、グループで臨床場面を想定したシナリオ課題に取り組む方法で、コミュニケーション能力や問題解決能力を養うことを狙いとしています。低学年では時間数に限りがありますが、教員は授業以外でもこのような主体的な学びを常に意識して学生と関わっています。講義形式の授業では、教員自身の臨床エピソードを交えるなど、さらに工夫した授業展開に取り組んでいきたいと思います。

2）臨床実習

（質問）　**宿泊などを伴う遠隔地の臨床実習に対する事前準備をどのように整えればよいか知りたい。〔2 年次生〕**

（回答）　臨床実習先は実習開始の約 2 か月前に決定します。実習に必要な準備につきましては、臨床実習ガイドブックとは別に「保護者様にお伝えすべき内容」を書面にまとめて学生に渡しています。その中で宿泊施設を利用する場合の諸注意も含めていますので、この点を保護者様に十分にお伝えできるよう、オリエンテーションのプロセスなど引き続き検討して参ります。

（質問）　**臨床実習で過度に厳しい指導を受けると感じることがある。教員がもっと関わって欲しい。また低学年から模擬実習のようなものを実施して頂けないだろうか。〔4 年次生〕**

（回答）　臨床実習の半ば頃には、教員が実習地に訪問し学生および実習指導者と面談する機会を設けています。その際に実習指導者の要求する到達度が高すぎるようであれば、指導方法や課題内容について調整をお願いしています。また、その後も担当教員が常にメールや電話で学生と連絡をとり、実習の遂行状況と健康状態の把握に努めています。

作業療法学科では、1 年次に見学を中心とする「作業療法体験実習（1 週間）」を実施しています。そして 2 年次から 3 年次にかけては、授業の中で 4 年次や実際の当事者様の協力を得て、臨床面接や機能検査技能等をトレーニングする学内演習を実施しています。この他にも、ボランティアへの積極的参加を促すなど、長期実習に出る前に、出来る限り実際の場面に近い形を経験する機会を設けています。これらのことが十分に機能するよう今後も指導にあたっていきたいと考えています。

3）教員

（質問）　**先生方は学業の他にも悩みの相談に応じてくれ丁寧に接して頂いていると感謝しておりますが、時に先生の主張が強すぎると感じることがあるようです。そういう場合は子供の個性を尊重した指導をして頂きたい。〔3 年次生〕**

（回答）　社会の期待に応える専門職業人を目指すために、卒業時点で一定水準に到達することが求められます。その厳しさと引き換えに国家資格が得られるのだと考えていますが、一方通行とならぬよう、今後も丁寧な指導を心がけたいと思います。

●言語聴覚学科

1）授業（講義・演習）

（質問）　**授業については、子供から聞く限りではとてもありがたいご指導だと感じております。ただグループワークに伺う毎日の様子を見ていますと、課題が多いようで、体調も心配となってきます。一つの試練訓練だと思い頑張ることはとても身になると思いながらも心配し過ぎでしょうか。〔2 年次生〕**

（回答）　本学並びに言語聴覚学科の講義では、アクティブ・ラーニング（学生の能動的学習形態）の実践が行われており、高校の学習形態では経験の少なかったグループワークや自主学習を中心に授業が展開されることも少なくありません。グループワークは、チームワークやリーダーシップの育成、知識の定着と発展、創造性の開発等において有意義な授業形態です。

しかし、ご意見のように課題量が過負荷になることは学習効果を低下させることにもつながります。ご意見を受けて、各学年および各学生の特徴や到達度、科目（教員）間の課題内容や量を把握して、グループワークの量や課題を調節していきます。

2）臨床実習

（質問）　**実習について平等にしてほしい。分からない土地に行く子もいるので、その土地の事や、必要な物とか実習前に相談会（一人一人面談）をしてほしい。〔3 年次生〕**

（回答）　臨床実習を依頼する際には、大学および学生の出身地になるべく近い施設に対して交渉をしています。しかし、言語聴覚療法の臨床実習はマンツーマンの指導が基本となることや、本学科の臨床実習地は受け入れ先に十分な実習指導体制が整い、豊富な指導経験を有する言語聴覚士が充足していることを前提としています。また、学生には領域（小児、成人、聴覚など）や施設の特徴（急性期、慢性期、療養型など）についてアンケート調査で希望を聞き、さらにできるだけ多くの経験ができるよう 3 回の実習先に偏りが出ないよう配慮し、そのうえで実習指導者との相性も考慮に入れて配置を決定します。このような条件を満たす施設数には限りがある状況でもありますが、本学科では学生や保護者様の負担や不安をできる限り軽減するよう、大学近郊での実習地の開拓や卒業生の就職先施設での実習、実習方法の検討などを検討し実習の改善に努めています。

また、実習前指導は、実習ガイドブック等を参照しながら、個別的に担当教員を決めて行っています。しかし、ご意見のように、配置先の地域性など状況も含めて一人一人の理解の状況の確認を丁寧に行い指導するよう改善に努めます。

3）教員

（質問）　**先生の学生に対する指導方法や態度、言動に疑問や問題を感じることがあるようです。思いやりを持って接して頂きたいと思います。〔2 年次生〕**

（回答）　学生が将来、言語聴覚士として活躍し、また臨床現場でチームの一員として対象者に適切に治療や指導ができるよう学生指導を丁寧に行っています。しかし、ご指摘のように、教員の態度や言動、指導の仕方で、厳しいと感じたり、精神的負担や不信感を持つ学生もいることがわかりました。

学生の人格を尊重し、学生と教員の信頼関係と愛情を基に、指導時の言動や伝え方に配慮するよう改善を図ります。また、教員としての態度を振り返り、教育者として、言語聴覚士の先導者としての自覚をもって後進の育成を行っていきます。

(2) 就職支援

（質問）　**就職活動は他の大学と日程や状況が違うので保護者は不安になります。具体的な日程や進め方などの情報を発信または提供して欲しいです。**

（回答）　3・4 年次の学生には 4 月のガイダンス時に「就職ガイドブック」を配布し、就職活動の全体像、大学の支援行事、履歴書の書き方、採用試験対策など、個々の事例も出しながら説明しています。「就職ガイドブック」抜粋版を同封しましたので、ご覧ください。保護者の皆様には、保護者懇談会において学年ごとに詳しくご説明させていただいています。また、大学報、大学ホームページ、ＷＥＢキャリア支援センターにて就職支援の一部を掲載していますのでご覧ください。

採用試験も職種により異なり、看護師は 4 月から始まっていますし、リハビリテーション職は 8 月から本格化します。福祉職は施設規模によって異なり、遅いところは 2 月になります。希望する職種、施設規模によって異なりますが、多くの求人をいただき、100％の就職率に至っています。学生の就職活動を、温かくお見守りくださいますようお願いいたします。

就職に関することでご不明なこと等は、学部の就職委員、就職センターにお電話やメールでお問い合わせください。

(3) 国際交流

（質問）　**・海外研修に参加させたい希望があるが、親に対する情報が足りない。**

・海外研修や実習等の機会があれば、是非体験させたいと思っておりますので、研修の内容や選考基準を教えてください。

（回答）　本学は、シンガポールのナンヤン理工学院（NYP)、中国重慶市の第三軍医大学、アメリカカリフォルニア州のサミュエルメリット大学（SMU)と交流協定を締結し、海外研修及び実習を実施しています。

まず、三学部共通の海外研修としては、シンガポール研修と中国研修があります。看護学部には、国際看護実習（NYP)、アメリカ看護研修(SMU)、リハビリテーション学部には、国際理学療法実習（NYP)、国際作業療法実習(NYP)、アメリカ言語聴覚研修（ハワイ大学マノア校）があります。また、社会福祉学部には、国際福祉実習があり、インド聖隷希望の家、韓国東明園、ブラジル聖隷希望の家での実習を行います。さらに、英語をマスターしたい学生のために、個人参加の海外英語研修もあります。

以上の研修・実習の内容や選考基準等は、ホームページや実施要項に掲載いたします。海外研修・実習は、現地での研修や実習以外に大学内で事前・事後研修を行い、英語のレベルアップや研修国の保健医療福祉の現状のなどの事前研究や研修後の振り返りを行い、学習効果の向上を図っています。研修・実習では、英語での会話が基本になりますので、英語力の高さが選考基準の一つになります。

(4) 学生生活

【自動車通学】

（質問）　**年度の途中から大学の駐車場を利用したいのですが、できないのでしょうか。**

（回答）　現在学生の皆さんが利用している第一・第二・第三駐車場には、393 台の車が駐車できます。2015 年 4 月 30 日現在の駐車許可台数は 452 台です。

毎年キャンセルがあり、空きがでていますので、秋セメスターから車通学をしたいと考えている皆さんのために 7 月頃に学生駐車場利用予約のキャンセル件数を確認し、9 月頃に駐車場利用の追加募集をする計画です。また、健康上の問題のある方は、学生サービスセンターにご相談いただければ、対応いたします。

【学生相談室】

（質問）　**心理調査を実施しているとのことですが、本人へのフィードバックはどのようにされているか、よくわからない。**

（回答）　実施している心理調査はUPI（University Personality Inventory）というものです。

主に大学の新入生を対象に、精神・身体的な問題の把握と、その他学生の悩み、迷い、不満、葛藤などの実態を調査するスクリーニングテストです。

多くの大学が入学直後の新入生に UPI を実施していますが、本学でも新入生と 3 年次生に対してこれを実施し、学生生活、学業等への不適応など精神面での問題を有する学生に早期介入を図る等、学生相談や精神衛生相談に利用しています。

学生全員へのフィードバックはしていませんが、調査結果から個別面談、カウンセリングが必要と思われる学生に対して学生相談室が対応しています。また、「調査結果について説明を受けたい」という設問に「はい」と回答した学生に対しても個別面談の機会を設けています。

【健康管理】

（質問）　**インフルエンザ予防接種の徹底をお願いします。伝わり方が曖昧で本年度は申込みを逃がした様です。**

（回答）　予防接種には、予防接種法で受けるよう努めなければならないとされている「定期の予防接種」と、希望者が個別に医師に相談し両者の責任と判断で行われる「任意の予防接種」があります。大学生が受ける予防接種はインフルエンザも含めて法律上「任意の予防接種」に位置づけられています。大学としては感染予防対策上一人でも多くの学生の皆さんに予防接種を受けていただくよう指導、勧奨をおこなっていますが、法的な枠組みのなかで行われるものですので強制的に実施することはできないことをご理解ください。

本学では予防接種に関する支援として、希望者に対して近隣医療機関によるインフルエンザワクチン接種を行っています。例年、ご協力いただける医療機関と日程調整を行い 10 月中旬から下旬にかけて学内で実施しています。

学内掲示とＥメールで全学生に連絡しております。今後は学内掲示箇所を増やすとともに、Ｅメールでの連絡回数を増やして周知を図ります。

学内接種の日程で受けられなかった学生には、近隣の医療機関やかかりつけ医療機関で受けることも勧めています。

【盗難・紛失】

（質問）　**・ロッカーでの盗難があると聞いています。実際、私の娘も私物を盗られ新たに購入をしました。**
・ロッカーでナースシューズがなくなってしまうことがありました。

（回答）　ロッカーで盗難が発生した場合には警察に連絡したうえで、盗難が発生したことをロッカー室内に掲示で学生の皆さんに周知し、盗難への注意を促しております。

学生の皆さんには、ダイヤル錠の 4 桁のダイヤルをしっかり回し、鍵の暗証番号を簡単に類推できないようにすること、教科書の購入時期や各種集金日などは特に注意をすること、靴やナースシューズなどもロッカー内にしまうことなどを伝え、自衛するよう呼びかけます。

(4) 施設・設備

【大学周辺環境】

（質問）　**□学校周辺の環境が夜には非常に不安に感じます。外灯など少なく、夜歩くには、暗くて淋しい感じで保護者としましては、不安です。**
□照明も少なく、女子学生が夜間一人歩きするのは、とても怖いと思う。もっと夜間照明を増やして防犯に努めて欲しい。
□大学周辺の防犯灯が少なく道路も暗いので娘はアルバイトの帰りや冬場の学校帰りが怖いと言っています。

（回答）　大学後援会の事業予算で、2015 年 4 月 28 日に第三駐車場に向かう川沿いの道路の 4 か所に LED の外灯を設置いたしました。今後は、根洗町の自治会に外灯の管理を移管することになります。既設の外灯 3 機と合わせて第三駐車場までの道路の暗い箇所はかなり少なくなりました。

今後も大学周辺の暗い通学路には、自治会と協力して計画的に外灯の設置をしていきたいと考えています。

（質問）　**大学周辺の通学路に交通事故が発生しそうな危険な場所があるように見える。対応をお願いしたい。**

（回答）　学生サービスセンターで、大学周辺で交通事故の危険性の高い場所や実際に交通事故が発生した場所を調査し、学生の皆さんに危険箇所として注意を促していきます。また、自動車・バイク通学者には大学周辺での減速運転の励行を、自転車通学者には下り坂道の減速走行を呼びかけます。また、標識等が必要な場合は細江警察署に対応を相談します。

【駐輪場】

（質問）　**毎日原付バイクで通学をしているが、バイクの駐輪場を増やしてほしい。**

（回答）　駐輪台数を確保したうえで、安全にバイク専用駐輪場が利用できるよう改善方法を検討します。

【食堂・売店の充実】

（質問）　**□学食の内容を充実して欲しい。栄養のバランスなど考えて欲しい。メニューを増やして欲しい。**
□学食の量を増やしてほしい。
□学食があまり満足できていないようです。（メニュー、味等）

（回答）　本学の食堂・売店運営は、大学側と業務委託契約を締結している食堂運営業者との定期的な話し合いのもと、食堂運営を行っています。

現在メニューは定食 2 種類（ランチ A・ランチ B)、カレー、カツカレー、日替り麺、かけうどん・そば、麺セット、ミニ丼、アラカルト等、毎日 10 種類程度を提供しています。ランチ A については、栄養バランスと摂取量を同年代の栄養摂取量を元に作成しています。毎週水曜日には 690kcal 以下、野菜摂取量 1 日の 1/2、15 品目以上の食品を使用したヘルシーメニューを提供しています。また、定期的にスペシャルメニューを企画することで献立の変化を楽しんでもらえるようにしています。

味付けは、食堂運営業者の調理師 2 名、栄養士が味の確認をした上で提供していますが、更に美味しく食べていただけるよう今後も努力していきます。

ランチのご飯は無料で大盛りにできますので、カウンターでお気軽にお声掛けください。また、麺類やカレーについては有料（50 円）ですが、大盛りにすることができます。

今後もお寄せいただいた意見をもとにできる限りご要望に沿えるよう食堂運営業者と大学側で話し合いを継続して実施していきます。

なお、食堂・売店への要望等については、学生ホール内の“ご意見箱”に投書いただければ、食堂運営業者に直接声が届くことも併せてお知らせいたします。

【電算関係】

（質問）　**インターネットのサーバーがよく落ちるので改善してほしい。**

（回答）　2014 年度には、インターネット接続に関する問題が 2 つありました。

まず、5 月 19 日情報処理の授業時間内に、学内のパソコン環境を集中管理するサーバに負荷がかかり、コンピュータ教室の多くのパソコンが利用できない障害が発生したため、サーバの負荷状態を解消する対策を行ないました。また、6 月 30 日から、学外からのウィルスによるサイバー攻撃を受け、学内のネットワーク機器が停止してしまう障害が発生しました。攻撃を回避するために応急処置を行なった後に、セキュリティレベルの高いネットワーク機器の導入と、学外からのアクセス方法を変更する総合的な対策を実施しました。

対策後、上記の問題は解決し、ネットワークは安定稼働しています。今年度は高性能の無線 LAN 機器の導入等を計画しており、引き続き安定稼働のための改善を継続していきます。

(5) 事務職員

【事務職員の対応】

（質問）　**□事務職員へわからない事を聞きに行ったが、対応が不親切だった様です。**
□事務の態度が良くないようです。何も分からない 1 年生、丁寧に対応していただきたい。
□事務員の中に態度のよくない人がいるそうです。
□実習場所で事故があったときの対応。親身になってもらえなかったため、精神的に実習に影響した。

（回答）　学生の皆さんは手続き、分からないことや相談などで各センターに訪れます。各センターが受ける質問などは同じような内容ですが、毎年新入生が入学し、年次が進むことから学生さんは変わっていきますので、学生さんにとって直面する問題は新たな問題です。また、同じような質問でも学生さん個々の状況により真意が異なってきます。職員が想像力を持ってお応えしなければいけないはずなのに、杓子定規な回答、管理的な態度、不親切な言葉づかいになっているとのご指摘ですので、職員全員が意識を変えて学生の皆さんにお応えしていきます。

（質問）　**学友会担当の学生に多額の現金や通帳の扱いを学生だけにさせていると聞いています。もし何かあった時に責任はとって頂けるのでしょうか？年度初めに振込む学友会費も任意にもかかわらず、生徒が振込をしていないその家庭に連絡をするそうですが、それは事務の方の仕事ではないでしょうか？必ず回答を全保護者に行き渡るようにお願いします。**

（回答）　学友会は、学生が主体で運営する団体です。学友会費の納付書は、大学が学友会から委託を受けて、入学手続きの資料に同封しています。学友会費は、学生のサークル支援、新入生歓迎会・クリスマス祝会・聖灯祭などの学友会主催の行事費、卒業記念品・卒業パーティ分担金等に使用しています。

大学は、学生の学友会の活動について、学生部教員と学生サービスセンターが支援をしています。トラブルが起きないよう、学友会の会計は複数の学生で行ない、預金通帳や銀行印を学生サービスセンターで預かっています。払い戻しや振り込み時には、学友会会計担当者と学生サービスセンター担当者の両者で必ず確認をしたうえで、学生（原則複数で）が銀行の手続きを行います。学友会費の入金確認は学友会が行い、未納者への納入依頼も学友会の学生が直接会費未納学生にしています。